

◆ **今週のコメント**

- ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、0.76(31例)と本年度で最も多くなっています。年齢階級別では、6箇月～8歳で報告があり、2歳が25.8%(8例)を占め、次いで1歳が19.4%(6例)となっています。全国では、定点当たり報告数が先週(1.56)に比べ大幅に増加しており(2.87)、夏季の流行期に向けて注意が必要です。
- 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.10(45例)で、増減を繰り返していますが、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。年齢階級別では、5歳が22.2%(10例)と最も多く、次いで4歳と6歳が各13.3%(6例)で、3歳～8歳が75.6%(34例)を占めています。
- 水痘の定点当たり報告数は、1.73(71例)で、先週に比べやや減少しましたが、依然として過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、1歳が35.2%(25例)を占め、次いで2歳(12例)、3歳(10例)、4歳(9例)、5歳(6例)の順となっています。

◆ **今週のトピックス: <手足口病>**

手足口病の定点当たり報告数は、2.54(104例)で、先週(1.80)に比べ増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ **発生状況**

全数報告の感染症

- 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 9例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.56	187
	② 手足口病	2.54	104
	③ 水痘	1.73	71
	④ 流行性耳下腺炎	1.10	45
	⑤ ヘルパンギーナ	0.76	31
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

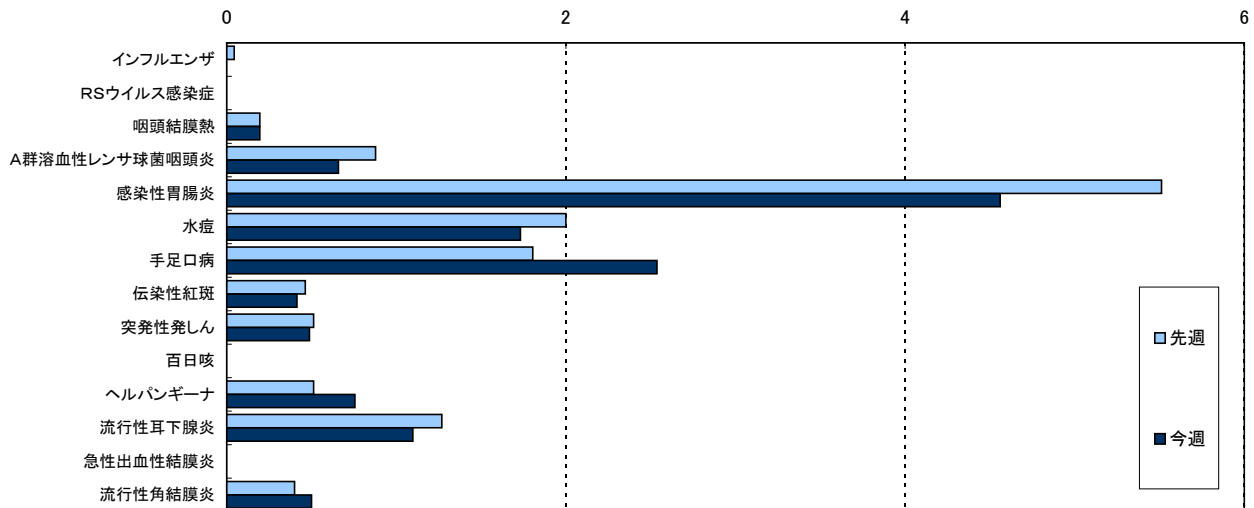
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

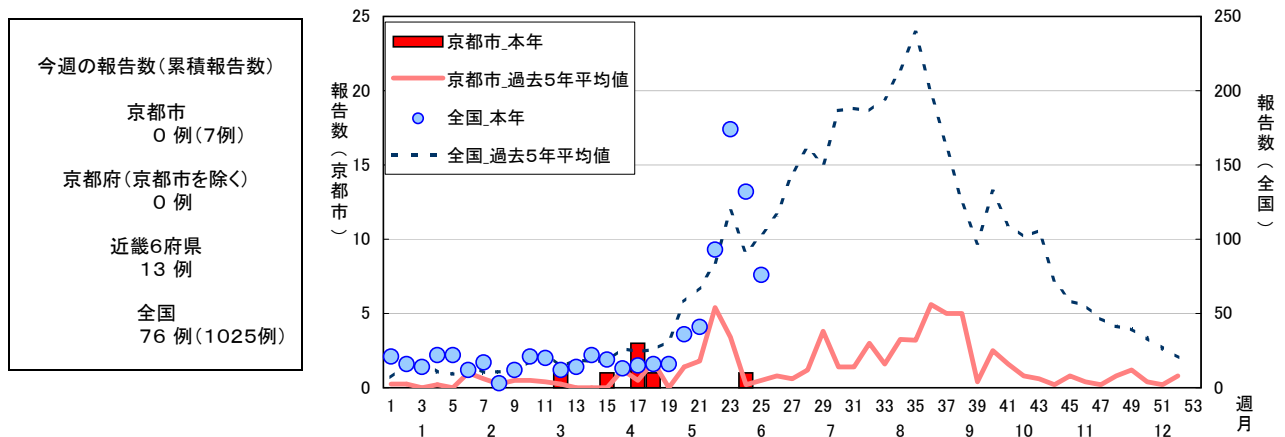
(注) 京都市のデータは、平成22年7月1日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第25週)と先週(第24週)の定点当たり報告数の比較

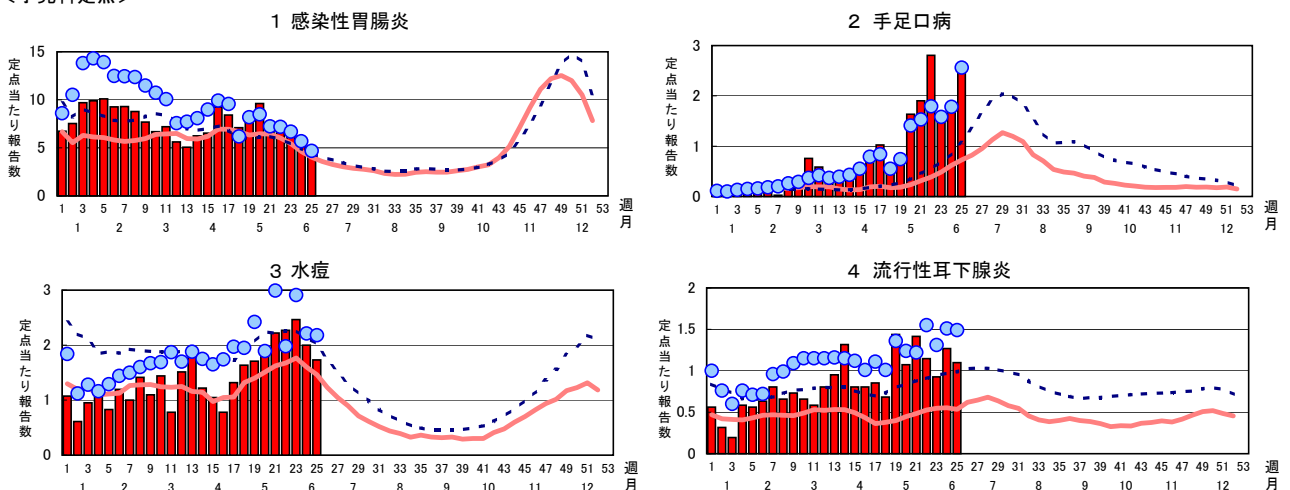


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

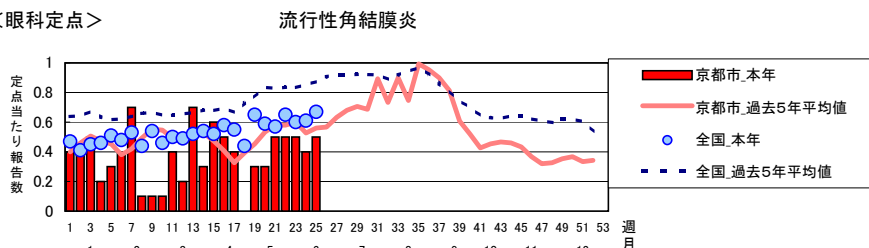


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



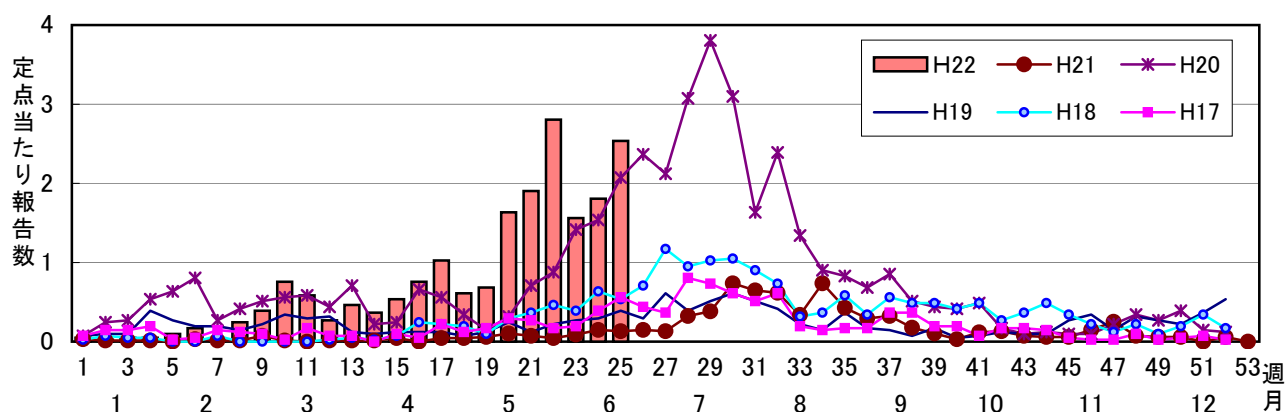
## 第25週(6月21日～6月27日)トピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、2.54(104例)で、先週(1.80)に比べ増加しています。年齢階級別では、1歳(24.0%, 25例)が最も多く、以下、2歳と3歳(各17.3%, 各18例), 5歳(14.4%, 15例), 4歳(13.5%, 14例)の順となっており、1歳～5歳で86.5%を占めています。

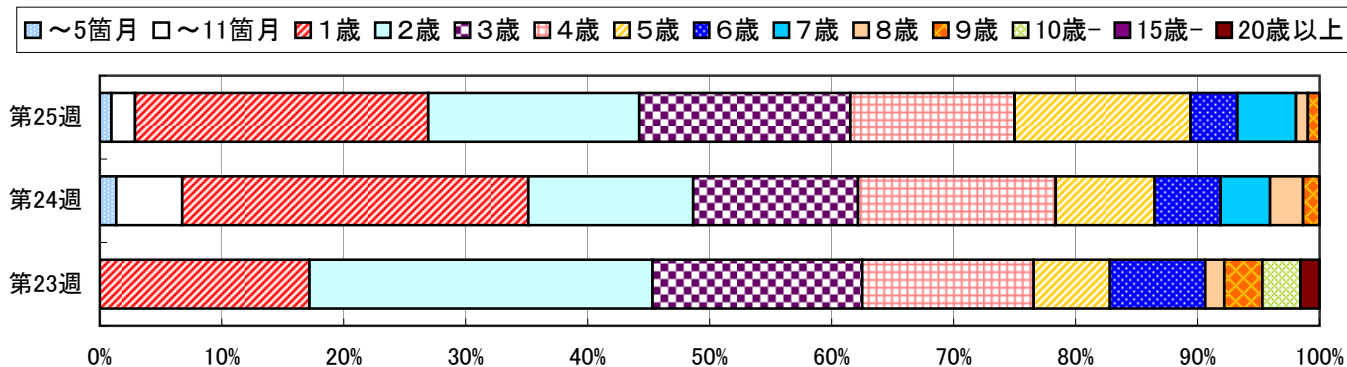
全国では、愛媛県、山口県で第20週(5月17日～23日)に、定点当たり報告数が5.0(警報開始基準値)を超えるなど、西日本地域を中心に報告数が多くなっています。近畿地方の各府県でも、報告数が多くなっており、今週は特に、滋賀県(4.97)で大きく増加しています。夏季に向け、更なる患者数の増加が予想されますので、動向にご注意ください。

原因ウイルスのなかで、エンテロウイルス71型(EV71)は、中枢神経合併症の発生率が他のウイルスに比べて高いと言われていますが、全国では、本年、手足口病の患者の方から分離されるウイルスの約70%をEV71が占めています。京都市衛生環境研究所においても、本年に入って、EV71を5例分離しています。ホームページに最新の病原体検出情報を掲載していますのでご参照ください。( <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000072537.html> )

本市の定点当たり報告数の推移(平成17年～平成22年25週)



年齢階級別割合の推移



全国及び近畿地方各府県の定点当たり報告数の推移

